

あけまして  
おめでとうございます。  
本年もよろしく  
お願い申し上げます。



2018年最初のメルマガを担当する武蔵野美術大学三澤一実です。新年のメルマガなので、柔らかく（いつも堅くないといけないというわけではありません）、思いつくままに昨年感じたこと、そして今年行いたいことなどを書き込んでいきたいと思えます。

## まずは全美協について・・・(柔らかくと言いながら堅い内容か?)

2017年の4月に、自身2度目の会長職に就きましたが、会長の任期が2年ということもあり、前回会長をさせていただいた時にはようやく仕事に慣れた!と思ったときは、すでに任期が終わっていたように思います。大学の仕事も以前より増してきた中で、ぼやぼやしているとあっという間に任期が終わってしまうと感じました。その中で、いつも駄馬に鞭を入れてくださるのが事務局の皆さんです。「そろそろ会報の時期じゃないの?」とか「会報の発送はいつやりますか?」とか、ポーとしている私に仕事の自覚を促してくださいます。

そして締め切り間際の時間の無い中で、レイアウトを整えていただいたり、原稿を書いていただいたり、そのような無理なお願いを受けて頂いているのも事務局スタッフの皆さんです。いつも「もっと早く言ってよお」と心の声が聞こえております・・・

正直言ってこの全美協の組織は弱小です。国立大学の教育学部を中心にした全国教育大学協会美術部門(教大協)と比較しても、加盟大学数こそ全美協の方が多のですが、多くの私立大学では、美術教育を担う教員が1名しかいないような教職課程が多い中、なかなか出張ができない、大学内で仕事の分担が出来ないという状況だと思います。そのような中、やはり大切



2017年5月13日 役員会 聖徳大学にて  
手前左より大成哲雄先生(聖徳大学)磯部錦司先生(椋山女学園大学)三澤一実(武蔵野美術大学)水島尚喜先生(聖心女子大学)奥左から畠山智宏先生(清和大学短期大学部)北沢昌代先生(聖徳大学短期大学部)山成昭世先生(京都聖母女子学院短期大学)大貫真寿美先生(洗足こども短期大学/帝京大学)篠永洋先生(活水大学)押元信幸先生(東京家政大学)矢野真先生(京都女子大学)



2017年5月13日 役員会協議の様子 聖徳大学にて



にしなければならないのは造形美術教育を教える教員同士の横の繋がりだと感じております。と、なると、この全美協の組織も重要な情報交換の組織となり得るのではないのでしょうか。

教大協の美術部門と比べて弱小だと言いましたが、そうでない点もあります。それは幼児教育に関わる大学の多さです。国立系の大学が幼保の教員養成が少ない中、全美協に加盟している大学が幼児期における造形美術教育の充実を担っているのです。よって、幼児期の造形美術教育に関わる教員及び保育士、そして指導者の育成という点に関しては、全美協の働きに大いに期待できる点があると考えています。もっと言うと、国を代表する造形美術教育教員養成の組織、『全国造形美術教育教員養成協議会』（何とも覚えにくい名称なんでしょう）となるわけです。本年も引き続き繋がりテーマに活動を広げていきたいと存じます。

## 本年の活動

個人的な活動を書かせていただくことを許していただければ、昨年度も『旅するムサビ』で全国各地を旅させていただきました。北は北海道から南は奄美大島まで。また、海外では台湾での鑑賞授業及び講演なども印象に残っております。台湾では『美感教育』として音楽、美術、体育の合科教育が進められています。台湾も日本の教育に近いこともあり、その動向が気になるところです。



左上より台北市立敦化中学での鑑賞授業 右上:台北市立関渡小學)左下:国家教育研究院の皆さんと。右下:美感教育のプロジェクト授業。自己の確立を目標として iPad を使って作曲し、自分のロゴを作成していく。steam 教育の一環に位置づけている。



福島県柳津町立柳津小学校での黒板ジャック

さて、『旅するムサビ』で全国各地を訪問する際にいつも感じるのですが、日本全国教育の質は学習指導要領によって一定の質の保証がされていますが、こと美術教育についてはそうは言えません。内容の格差には心が痛むものがあります。

ある『旅するムサビ』の振り返り研修会で、若い教員から「ヒマワリを元気に描かせたいのですが、どう指導したらよいのでしょうか」と質問されました。その切実な思いを受けて（切実とは子どもたちに教えたいという教師の切実な思い）、「描かせることが授業の目的では無いですよ」と答えるときに感じる心の痛み・・・大学教育で私たちがしてきたことは何なのだろう？という問いが生まれます。



鹿児島県奄美市立住用中学校。全校生徒 15 名。教頭先生は話すのが苦手と言っていたが、活発に話してくれた。



長野県茅野市立米沢小学校。地元作家とコラボレーション。



時代が変わり、教育が変化して行く中で教師自身が造形表現に対して求め続ける、いわゆる、こう描かせたいとする教師の“理想とする型”、その変わりきれない固定概念、その概念はどこで形成されるのでしょうか。幼小中高の学校教育の中で形成されるとするならば、それらを大学教育の教員養成課程で修正しきれていないのだろうか？という次の問い。それは教育委員会や学校現場で変えるべきだという主張もありますが、だとしたら私たちの役割はどうなるのでしょうか。という更なる問い。



所沢市立三ヶ島中学校での『旅するムサビ』。この『旅するムサビ』がきっかけで全校で週1回の朝鑑賞に取り組んでいる。1年間で書く力が20%伸びた。ファシリテーターは学級担任ほか全教員で取り組んでいる。

廊下に同じ構図で同じ色彩の絵が並ぶ状況を目にする度に、この先生を育てた大学の先生は何をしてきたのだろうと考えてしまうのです。大学の教員は一生懸命に教えてきたのかもしれませんが。造形美術表現の学びは、一旦心に刻まれると変化することが難しい頑固なモノという見方もできます。(体験を通して身につけていく能力-体験としての強さ)それらを変えていくには知識だけでは補えない実感を伴った変化を見えるかたちで提供するしか無いのでしょうか。

## 世界をひろげる

今年1年、自分の世界を広げることをしていきたいと考えています。自分の手の届く範囲、足で向かえる世界を今年以上に広げたいと思います。足を使って行けなくても、ネットの世界なら行けるかもしれません。もしかしたらそこでの出来事は虚構かもしれませんが、実際に足を使ってフィールドワークを重ねていけば、それが事実か虚構か判断はつくでしょう。また、足を使ってその場に行けないのであれば多くの方に来てもらえばよいでしょう。新たなモノやコトとの出会いが世界を広げる鍵になると思うのです。

全美協も、教育企画に対して「造形教育フォーラム」という教育研究支援金を出しています。このフォーラムは皆さんからいただいた年会費から7万円を拠出して事業を委託するもので約18大学分の年会費に該当いたします。今年は2月17日に東洋大学白山キャンパスで、山陽学園短期大学の鳥越先生にお願いすることになりました。

ほかにも、様々な情報収集の機会があります。このメーリングリスト(zenbi-ml@musabi.ac.jp)がそのような情報交換の場になればと考えています。2018年1月1日現在、ちょうど100名の登録があります。どなたが参加していて、どなたに配信されるのか不安な方も多いたくはないでしょうか。参加会員のアドレスをMLで公開したいと考えているのですが、サボっています。これも本年の課題です。

●次回5号 2月1日発行は山陽学園短期大学の鳥越亜矢先生です。

# 「5C」の力で子どもの「みる」を楽しみ、学ぶ

～経営学と教育学、異分野研究の素敵な出会い～

【日時】 2018年2月17日(土)  
(12:30～受付)  
13:00～17:00

【会場】 東洋大学 白山キャンパス  
2号館16階スカイホール  
(東京都文京区白山5丁目28-20)

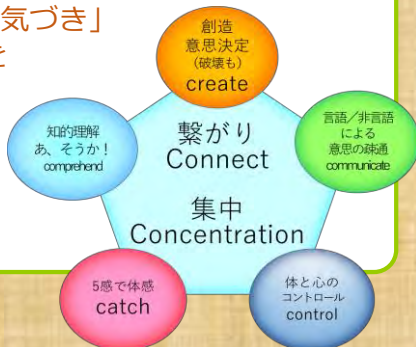
- ・都営地下鉄三田線「白山」駅下車 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅下車 徒歩5分
- ・JR山手線「巣鴨」駅から都営バス10分「東洋大学前」下車すぐ
- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅下車 徒歩15分



## 「5C」のちからとは

東洋大学経営学部教授の小川純生先生による『C』をキーワードにした遊び理論です。  
「つながり」Connectと「集中する」Concentrationを前提として、人間は大人も子どもも「面白い」を捉える力として、自らの「五感を使って感知する」Catch、「心や体、道具をコントロールする」Control、「視線や表情、言葉でコミュニケーションする」Communicate、「破壊も含めた創造」Create、「知的な理解や気づき」Comprehendを

発揮しているという遊びの説明理論です。



## 内 容

講演：「遊び概念、面白さ、そして5C」  
東洋大学経営学部 マーケティング学科  
教授 小川純生

事例発表：「5C」の力、こんなふうに使っています！  
－保育者養成校・保育現場での活用事例－  
山陽学園短期大学 幼児教育学科  
准教授 鳥越亜矢

### みるを学ぶワークショップ

チャイルドビジョンで子どもの視界体験！



### みるを楽しむワークショップ －「5C」の力を駆使する鑑賞活動－

芸術鑑賞支援ボランティア「みるを楽しむ！アートナビ岡山」の協力による、対話を用いた鑑賞活動体験！

みんなで語ろう！つながろう！

【申込方法】裏面申込用紙に記入して、FAXまたは、Eメールでお申し込みください。

## お問い合わせ 申し込み先

山陽学園短期大学 幼児教育学科 准教授 鳥越亜矢

〒703-8501 岡山県岡山市中区平井1丁目14-1

TEL : 086-901-0575(直通) FAX : 086-273-3226 e-mail : torigoe@sguc.ac.jp

参加費無料  
先着100名

【事前申込制】

2018/1/10までに！

鑑賞は鑑賞者自身の「5C」の力をフル活用する活動です。そのことを実感していただくため、今回は岡山県で芸術鑑賞を支援しているボランティアグループにご協力いただきます。

## 「みるを楽しむ！アートナビ岡山」とは…

対話による芸術鑑賞やワークショップを支援し、アートと人、人と人をつなぐお手伝いをするボランティアグループです。2015年9月に設立し、代表の片山真理を含む13人でスタートしました。



みるナビができること、それは…

- ・対話による芸術鑑賞
- ・鑑賞ワークショップ活動の支援
- ・鑑賞ナビゲーターの養成

芸術鑑賞って敷居が高いけど気になるな、アートってよくわからないけど面白そう・・・そんな思いをお持ちの皆さんと、作品と対話し他の人と対話しながらだんだん作品と知り合いになっていくお手伝いをしています。美術館・ギャラリー・学校(学級・学年単位でも)・公民館などの他に、美術館にはなかなかいけないけれどアートを楽しみたいと思っているグループ、アートを楽しむためのワークショップなど、いろいろなニーズに対応できるようにしようと考えています。

公益財団法人福武教育文化振興財団より、平成28年度から3ヶ年継続助成取得。  
岡山県文化連盟正会員団体。

みるを楽しむ！アートナビ岡山 Facebook <https://www.facebook.com/mirunaviokayama/>

平成29年度 全国大学造形美術教育教員養成協議会 造形美術教育フォーラム

## 「5C」の力で子どもの「みる」を楽しみ、学ぶ —参加申し込み書—

平成30年1月10日(水)までにファックスまたはEメールでお申し込みください。

* ふりがな		* 職業	会社員・教員・幼稚園教諭・保育教諭 保育士・学生・無職 その他 ( )	
* 氏名		所属先		
* お住まいの地域	都・道・府・県	* 連絡先	TEL	
	市・町・村		E-mail	

\*のある個所は、必ずご記入をお願いいたします。

(申し込み先) 山陽学園短期大学 幼児教育学科 准教授 鳥越亜矢  
〒703-8501 岡山県岡山市中区平井1丁目14-1  
TEL: 086-901-0575 (直通) FAX: 086-273-3226 (代表)  
e-mail: torigoe@sguc.ac.jp



一般参加可  
参加費無料!

所属団体、学校種などに関係なくどなたでも自由に参加できます

## 新教育課程 - 実践授業のあり方を問う

平成29年3月31日に幼稚園教育要領、小学校及び中学校の学習指導要領が改訂告示され、来年度からの移行措置期間を経て、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から全面実施となります。

今回のフォーラムでは、新学習指導要領の考え方や方向性を基盤とした授業のあり方を、お二人の先生から授業の実践を紹介いただき、新教育課程における図画工作科、美術科の授業実践のあり方について参加者の皆さんと具体的な意見交換を行います。

- 日時 平成30年1月21日(日)  
13:30~16:30
- 場所 東洋大学白山キャンパス  
6号館2階6204教室
- 司会 三澤一実(みさわかずみ)  
日本美術教育連合運営委員  
武蔵野美術大学教授
- 提案者 大櫃重剛(おおびつしげたか)  
東京学芸大学附属世田谷小学校教諭  
飯田成子(いいだしげこ)  
埼玉県朝霞市立朝霞第五中学校教諭



- 都営地下鉄三田線「白山」駅  
A1 出口から「西門」徒歩5分  
A3 出口から「正門・南門」徒歩5分
- 都営地下鉄三田線「千石」駅  
A1 出口から「正門・西門」徒歩7分  
■東京メトロ南北線「本駒込」駅  
1番出口から「正門」徒歩5分





## ■提案者 大櫃 重剛 (おおびつ しげたか)

東京学芸大学附属世田谷小学校教諭  
図画工作教科書など執筆多数。

今回の改訂では、領域・題材を視軸に置いてきた従来の教科観を、資質・能力の柱で整理し直すという、発想の転換が我々に求められています。しかし、決してこれまで試行錯誤を重ねて子どもたちと築き上げてきた実践の成果が台無しになるわけではありません。むしろ、今までも大事にしてきた「この授業で子どもたちに培いたい力」をもとに、今回の柱をきっかけにして目の前の子どもたちの実態を見つめながら、系統的な視野でカリキュラムを考える機会になると考えています。



小学校1年 題材名「あيسくりいむ たべたいな」  
アイスやさんになって、クレヨンの色ともようで「自分だけの  
新商品アイス〇〇味をつくらう!」となげかけ、表現と鑑賞を  
行き来している活動の一場面。



題材名 「リラックス椅子のデザインを考えよう」  
埼玉近代美術館所蔵のグッドデザインの椅子に座って鑑賞した後にリラックスできるオリジナルの椅子をデザインしデザインにあった素材でミニチュア椅子を作る。

## ■提案者 飯田 成子 (いいだ しげこ)

朝霞市立朝霞第五中学校教諭  
国立教育政策研究所事業学習指導実践協力校委嘱 H25～H27・H29

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力の3つの柱が教科間で統一されたことにより、「美術科での学びは何なのか」ということをより明確化していかなければならないと感じます。

特に現行A表現(1)と(2)がA表現(1)ア、イにまとめられ、「目的や機能などを考えた発想や構造」においても「主題を生み出す」ことが位置付けられたことは、他者への表現でも、主題「自分」が大切であることが教科の必要性、存在感を増していると思うのです。



## ■司会 三澤 一実 (みさわ かずみ)

武蔵野美術大学教職課程研究室教授  
平成20年版小学校学習指導要領解説図画工作編作成協力者

今回の改訂では、「各教科の特質に応じた見方・考え方のイメージ」が示されました。このイメージは教科での学びを明確に方向づけると共に、一方ではこの学びを連携したり、社会とつなげていったりする「カリキュラムマネジメント」や「開かれた教育課程」もキーワードです。何を学ぶか、どのように学ぶかという学び視点が今まで以上に重視されますが、これらは美術教育において美術のダイナミズムを生み出すチャンスとなるのではないのでしょうか。



旅するムサビ 長野県茅野市立米沢小学校  
学生が作品を携え学校を訪問し対話型鑑賞を行う。2008年に始まったこの活動は10年で約300回行われ、訪問先は27都道府県、海外2カ所に及ぶ。



# 所沢市立三ヶ島中学校校内研究発表会のご案内<1次>

主体的・対話的で深い学びをはぐくむ三ヶ島アートプロジェクト

平成30年2月2日(金)

午後1時10分～

朝鑑賞公開!!

13:10～13:20 朝鑑賞 afternoon version

全学級にて朝鑑賞を公開します。

13:30～14:20 公開授業

<研究モデリングパターン公開>

3年生 総合「対話型芸術鑑賞教室」協力：武蔵野美術大学

保健体育「仮）ダンス单元」協力：県立芸術総合高等学校

1年生 家庭「仮）食に関する单元」

<全学級公開>

各学年各学級の授業を公開します。

1年 音楽・理科・英語 2年 国語・英語・技術・理科 3年 保健体育

14:35～14:55 インタクションmovie(研究概要紹介)

本研究では、朝鑑賞を媒介に思考力・表現力の伸長を目指し、それぞれの授業において主体的・対話的で深い学びをはぐくみ、学びに向かう力を高めていくことにせまります。

15:00～16:20 「旅ムサ」ワークショップ

対話コーディネーター 三澤一実 武蔵野美術大学 教授

参会者の方々と「対話」により、三澤先生と「学び」について意見交換を行います。



第66回読売教育賞  
カリキュラム・学校づくり部門  
優秀賞受賞



研究会のお申し込みはメールでお名前と所属をお知らせください。



平成29年度  
所沢市学び創造  
アクティブ研究

MAU

旅するムサビプロジェクト

所沢市立三ヶ島中学校

所沢市三ヶ島3-1407-1



TEL 04-2948-0668 FAX 04-2948-0808

mikajima-j@tokorozawa-stm.ed.jp

協力) 武蔵野美術大学 聖徳大学